

特に南海トラフ地震への対応においては、支援県と受援県の関係性から、平時より「顔の見える関係づくり」の重要性が共有された。

**【九州各県医師会回答】**

九州各県の医師会からは、南海トラフ地震発生時における甚大な被害およびその広域性により、従来の体制では対応が困難となる可能性があるとの指摘があった。そのため、行政との密な連携、平時からの顔の見える関係の構築、訓練を通じた体制強化、さらに広域支援・受援体制の具体的な検討や情報共有の必要性が示された。

佐賀県からは、自衛隊基地にオスプレイの配備が進められており、今後は医療搬送を含めた連携を図っていききたいとの報告があった。鹿児島県からは、宮崎県・熊本県・沖縄県との間で、

災害時の連携強化を目的とした意見交換会を開催している旨が報告された。沖縄県からは、他県で被害が発生した際には迅速な支援を行う方針である一方、本島南東沖地震の三連動発生時には県内に甚大な被害が想定されることから、他県からの支援協力を求めるとともに、国民保護に関する理解と協力も要請した。

**6. 次期開催地及び当番の選出**

次期開催地及び当番県として、沖縄県が選出され、沖縄県 糸数公保健医療介護部長より挨拶が述べられた。

**7. 閉会**

熊本県医師会 水足秀一郎副会長により、閉会が宣言された。

**お知らせ**

**日本医師会定例記者会見に関する周知**

日本医師会では原則、毎週水曜日に定例記者会見を開催し、松本会長始め常勤役員が日本医師会の考えや取り組みなどについて説明しています。

その模様は下記の広報物に掲載していますので、ぜひご覧下さい。

■ 日本医師会公式  
YouTube チャンネル



■ 日本医師会ホームページ  
「日医 on-line」



問い合わせ先：日本医師会広報課 E-M:kouhou@po.med.or.jp

■ 沖縄県医師会公式  
YouTube チャンネル



■ 沖縄県医師会ホームページ

